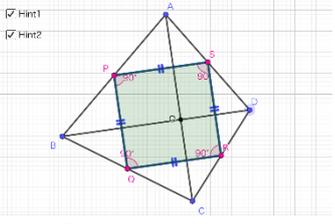
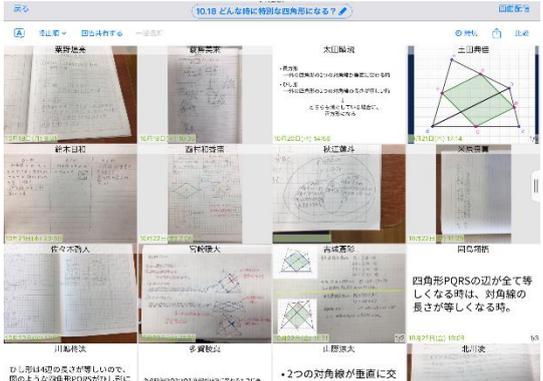
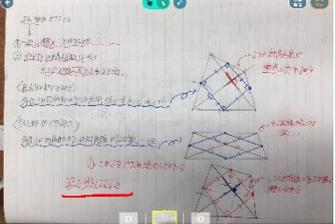


ICT実践レポート

作成者〔北方町立北方中学校〕氏名〔植田一弥〕

学年	第3学年
教材	5章『相似と比』2節「図形と比」～中点連結定理～
活用したソフト・アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクール https://n.loilo.tv/ja/ ・Geogebra(中数研 ICT 委員会) https://www.geogebra.org/m/pqteynpv  
活用したICT機器	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad(生徒一人一台) ・大型スクリーン・プロジェクター(教室備え付け)
活用の実際	<p>○学習レポートを提出する際に利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書いてもよいし、iPad上に残してもよいとし、まとめたものをロイロノート・スクールで提出させ、教室の大型スクリーンに提示する。 <p>〔実践：四角形の各辺の中点を結んでできる四角形はどんな四角形になるだろう〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.157 活動2→Q2→学びにプラス ・まずは任意の四角形をノートにかき、各辺の中点を結んだ四角形が平行四辺形になりそうだという見通しをもてるようにする。(ここで平行四辺形であるための条件を確認する) ・証明は口頭で済ませ、授業の終末に記述する時間を確保する。 ・次に、元の四角形の頂点がどこにあっても平行四辺形になることを実感できるように、中数研 ICT 委員会の GeoMathRoom から「中点のつくる四角形」を使った。タブレットを操作した生徒は、すぐに長方形やひし形になる場合があることに気付くので、「どんな時に特別な四角形になるのだろうか」と問いかけ、レポート作成につなげた。  <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールを使ってレポートを提出するようにした。このレポートはノートへの記述を写真に撮ってもよいし、iPadの画面上に記録したものでもよいことにした。 ・いろいろな四角形の定義や性質を再確認する場を設け、レポートづくりにつなげた。 
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを記述できない生徒には、仲間のノート(スクリーン)を見ることで、考えをもつことができるようになった。 ・2年次の「三角形と四角形」の学習を振り返ることもつながった。 
振り返り	<p>レポート提出までに十分な時間をとったので、どの子どもが班の仲間と協働的に課題解決に向かうことができた。</p>